

公共政策研究科研究指導計画

大学院生の個人的な問題関心は幅広く、これまでの研究蓄積も多様であるため、履修については学生一人一人に個別の履修指導時間を設け、丁寧な指導が行き届くように、指導教授が責任を有する。これに加えて、学生が所属するコース、専攻の教員がワークショップや中間報告会等の機会において適宜助言を与える。

I. 修士課程

1年次4月

- ・ 指導教員予定者にメールで連絡をし、最初の研究指導に必ず出席する。
- ・ 指導教員の「論文研究指導1Aおよび1B」を履修登録し、受講する。
- ・ 「指導教員承認届」を事務課に提出する。

1年次5月～3月

- ・ 学生は「論文研究指導1Aおよび1B」において、論文購読、フィールドワーク、調査、実験などを通じて主として研究方法について学修する一方、独自の研究テーマを絞り込む。
- ・ 期間内に開催される修士論文中間報告会で研究の中間報告を行う。

2年次4月～8月

- ・ 学生は指導教員の指導の下、修士論文と政策研究論文のいずれかを選択し、事務課に届け出る。
- ・ 学生は「論文研究指導2A」において、研究テーマに沿った調査・研究を実施し、中間報告会で報告する。

2年次9月～1月

- ・ 学生は「論文研究指導2B」において、修士論文を作成し、提出する。

2年次2月

- ・ 学生は修士論文の審査を受ける。

II. 博士後期課程

1. 公共政策学専攻

指導教員（主）の博士後期課程指導科目である公共政策学特殊研究1A・1B（1年次）、同2A・2B（2年次）、同3A・3B（3年次）を履修登録し、受講する。加えて、自身の指導教員が所属するコースのワークショップ科目を履修登録し、受講する。

2. サステナビリティ学専攻

の指導教員の博士後期課程指導科目であるサステナビリティ学特殊研究1A・1B（1年次）、同2A・2B（2年次）、同3A・3B（3年次）と選択必修科目を受講する。その上で博士論文提出までに博士論文中間報告会に参加し、研究発表を行い、専攻所属の教員から指導を受ける。

以上